

下呂市の教職員の 働き方改革の 取り組み

下呂市教育委員会

下呂市の働き方改革

- 1 部活動改革（地域移行）
- 2 16時30分活動終了
- 3 支える体制づくり
- 4 その他
 - ・ 長期休業中の取り組み
 - ・ 給食費・補助教材費の公会計化

下呂市の働き方改革

1 部活動改革（地域移行）

2 16時30分活動終了

3 支える体制づくり

4 その他

- ・ 長期休業中の取り組み
- ・ 給食費・補助教材費の公会計化

令和2年 文科省から

休日の部活動を地域や民間団体委託

将来的には平日の部活動も

教員による指導は希望者のみ

岐阜県から

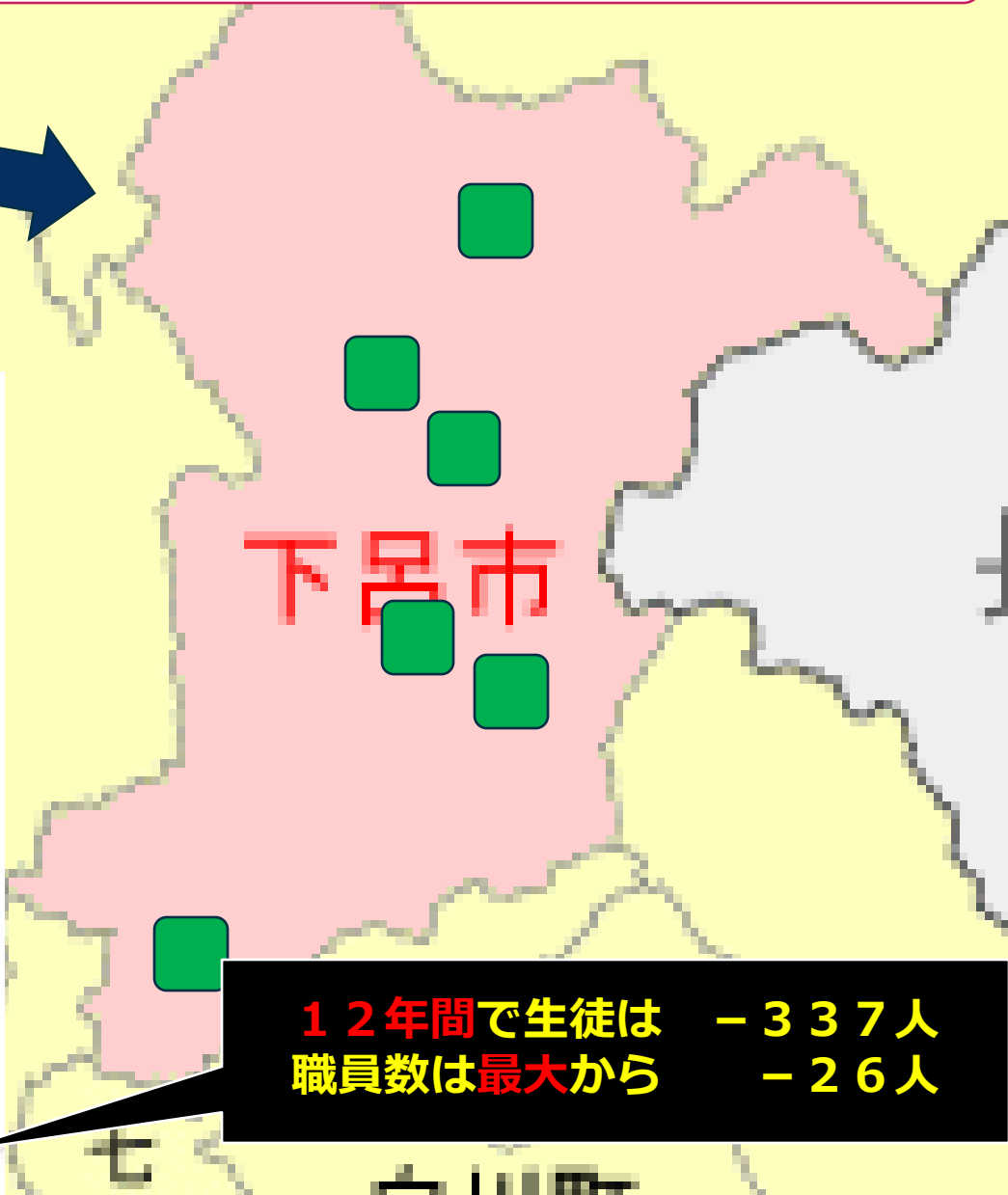
令和3年度より県モデル校で

令和5年度より段階的導入

下呂市では既に今後の部活動の在り方について下呂市校長会で検討中



下呂市 6 中学校 (9 小学校)



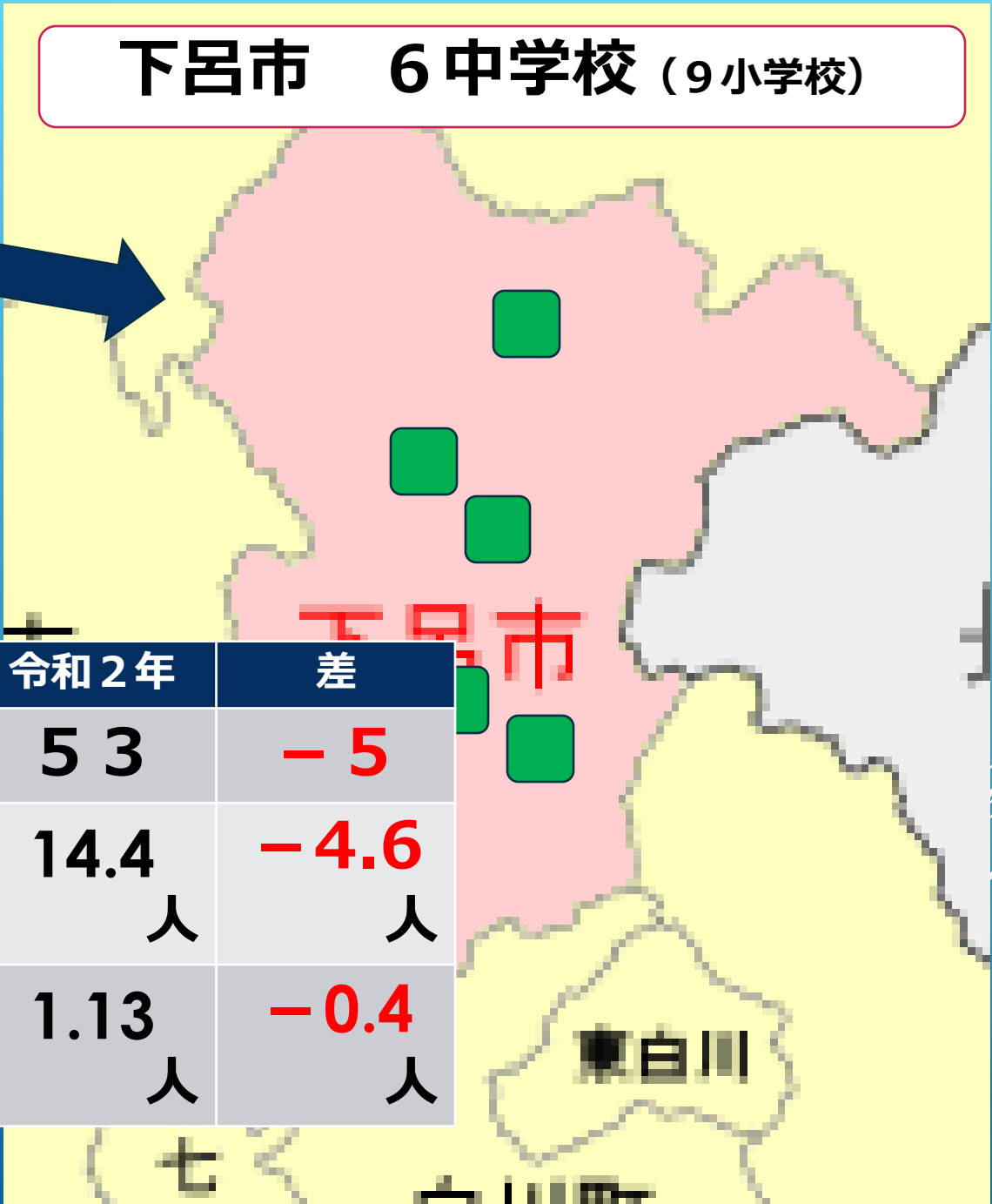
生徒数と教員数(5月現在)

	生徒数	教員数
H21	1101	73
H22	1071	81
H23	1063	85
H24	1037	86
H25	956	78
H26	930	74
H27	915	79
H28	886	74
H29	844	70
H30	792	64
R1	767	60
R2	764	60

12年間で生徒は - 337人
職員数は最大から - 26人



下呂市 6 中学校 (9 小学校)



	平成 2 1 年	令和 2 年	差
部 数	5 8	5 3	- 5
生徒数 ／部数	19.0 人	14.4 人	- 4.6 人
教職員 ／部数	1.53 人	1.13 人	- 0.4 人

下呂市の部活動の課題

生徒にとって 学校規模に対して

部活動数が多い学校

- ・ 人数が少なく、なりたたない部がある
- ・ 試合形式練習に支障をきたす場合がある
- ・ 切磋琢磨の関係が築きにくい
- ・ 専門的指導が受けられない場合がある

部活動数が少ない学校：上の内容に加えて

- ・ やりたい部活動がない、選択肢が少ない

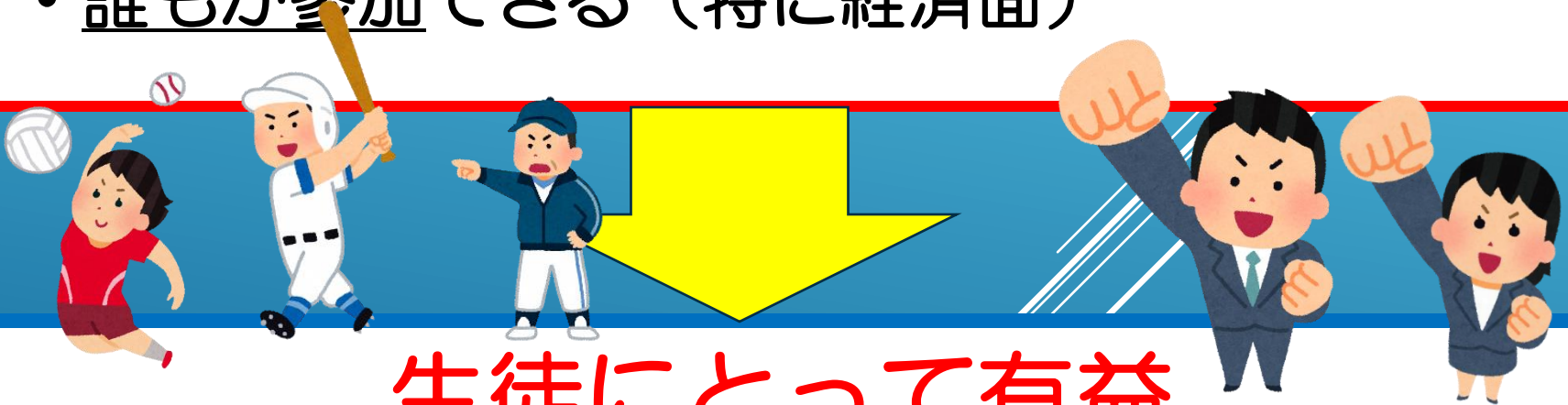
下呂市の部活動の課題

教職員にとって

- ・ 常に部の削減を求められ、
総論賛成、各論反対で議論が行き詰まる
(学校の多忙感)
- ・ 経験者を配置できない場合が多い
- ・ 顧問一人体制で休みづらい
- ・ 人によってはストレス、多忙感、教材研究の妨げ

下呂市部活動構想（コンセプト）

- 生徒がやりたいことに挑戦できる
- 生徒が専門的な指導を受け、競技力等が図られる
- 生徒が切磋琢磨でき、社会性を養える
- やりがいをもった指導者が充実感を味わえる
- 誰もが参加できる（特に経済面）



生徒にとって有益
持続可能な部活動の在り方

課題となったこと

① 休日の地域移行（合同部活動）

指導者の確保

支援体制

（補助金と移動手段の確保）

運営方法の構築

② 平日の部活動

地域の指導者による活動なら

夜の活動になること

平日：勤務時間の中で、学校で、先生が
休日：原則拠点校で、地域クラブ指導員が
地域クラブ指導員は、教育委員会が任命
小中学校の、やりがいを感じている教職員
地域の、やりがいを感じている社会人

月 火 水 木 金

**平日は部活動
16：30まで**

（夜はスポーツクラブ ※任意）

土 日

**休日は
地域クラブ活動
（合同部活動）**

部活動ガイドラインに沿った活動

平日：2時間以内4日以内

休日：3時間以内土日どちらかは休む

下呂市の働き方改革

1 部活動改革（地域移行）

2 16時30分活動終了

3 支える体制づくり

4 その他

- ・ 長期休業中の取り組み
- ・ 給食費・補助教材費の公会計化

1 6時30分生徒の活動終了時刻の設定

1 6時30分とは

教職員の勤務時間8:00～16:30

1 6時30分設定の経緯

R2:下呂市の今後の部活動の在り方を

校長会で検討する中で教頭会からの具申

R3前期:中学校長会で検討

教務主任会へ、職員会へ

R3後期:市教委へ相談、試し運用

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

16時30分とは

教職員の勤務時間8:00～**16:30**

16時

令和2年度の2ヶ月の休校、2週間の休校
(豪雨災害)で授業数を確保できた自信

R2:

長会で検討する中で教員からの具申

R3前

- 1月：市教委がバスダイヤの変更の交渉
- 3月：学校運営協議会へ諮る
- 3月：保護者への通知

R3後

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

日課の見直し(G中)

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
昼休み	12:55~13:10				
5限	13:15~14:05				
6限	14:15~15:05		14:15~15:05	14:15~15:05	
終活	15:10~15:25	14:10~14:25	15:10~15:25	15:10~15:25	14:10~14:25
掃除	15:30~15:45	14:30~14:45			14:30~14:45
7限			15:35~16:25		
放課後	部活動なし 生徒会議日 15:55~16:30	部活動 14:55~16:30	部活動なし	部活動 15:35~16:30	部活動 14:55~16:30
下校	16:45				

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

日課の見直し(G中)

	木曜			金曜
昼休み	12:55~13:10			
5限	火曜日と金曜日は5時間授業 水曜日は7時間授業			
6限	午後は主に総合的な学習の時間や学級活動			
終活	15:10~15:25	14:10~14:25		
掃除	15:30~15:45	14:30~14:45	14:30~14:45	
7限	15:35~16:25			
放課後	後期、部活動を終えた3年生については、火・金曜日の6限を教科に充てる場合もある			部活動 14:55~16:30
下校	16:45			

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

授業時間の確保

		平成30年度	令和4年度
1年生	教科＋特別活動＋道徳＋総合	1 1 0 8	1 1 0 8
	生徒会＋行事	3 9	3 9
2年生	教科＋特別活動	1 1 1 6	1 1 1 6
	生徒会＋行事＋F	8 5	4 7
3年生	教科＋特別活動＋道徳＋総合	1 0 4 2	1 0 3 2 (1 0 5 4)
	生徒会＋行事＋F	8 4	5 4

平成30年度並みに
週29時間の確保

1 6時30分生徒の活動終了時刻の設定

授業時間の確保

行事等の見直し例

市全体として

- ・市総合体育大会廃止、種目毎の開催

6時間減

地域に委ねる

- ・2年生の職場体験を1年間の「寝屋子学習」として地域(CS)で

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

授業時間の確保

行事等の見直し例(小学校も)

- ・生徒会委員会の時間の廃止
生徒会執行部と学級委員会の新組織
- ・1・2年の宿泊研修を1日研修に
- ・運動会・3年生を送る会等、行事練習削減
- ・儀式的行事の練習の削減
- ・節目の集会を授業開始前に実施

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

授業時間 16時30分

行事等

夏季休業日、7月21日から8月25日

冬季休業日、12月27日から1月7日

学年末始休業日、3月27日から4月6日

前期、後期制

始業式、終業式の日、授業実施
(中学校)

定期テストはなく、課題テスト重視

実力テストあり

テスト期間のための授業削減等なし

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

授業時間の確保

週3回の掃除（始めの計画は毎日の学校も）

生徒の部長会から3回掃除の提案、その条件

- ・日常ゴミを出さない、汚さない
- ・3回の掃除のやり方を追求し、美しくする
- ・トイレは当番を決めて毎日

学級委員会において指導に生かす
生徒会執行部の取組のひとつ

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

生徒の帰宅後の時間の有効活動への誘発

◇探究的な学びの勧め

- ・各教科等で魅力的な探求課題提示
- ・学力の不安な生徒に家庭学習方法提示

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

生徒の帰宅後の時間の有効活動への誘発

◇探究的な学びの勧め

◇読書の勧め

・「鞆に本」

◇部活動の目標に向かっての活動の勧め

・自主練習方法の提示

◇奉仕活動の勧め

・ボランティア、2年寝屋子学習（通年の職場体験学習）

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

生徒の帰宅後の時間の有効活動への誘発

昨年度と比べて	R4年12月
家庭学習をする時間が増えた	80人
読書をする時間が増えた	18人
寝る時間が増えた	51人
家族と過ごす時間が増えた	51人
趣味の時間が増えた	77人
翌日の疲れが減った	24人

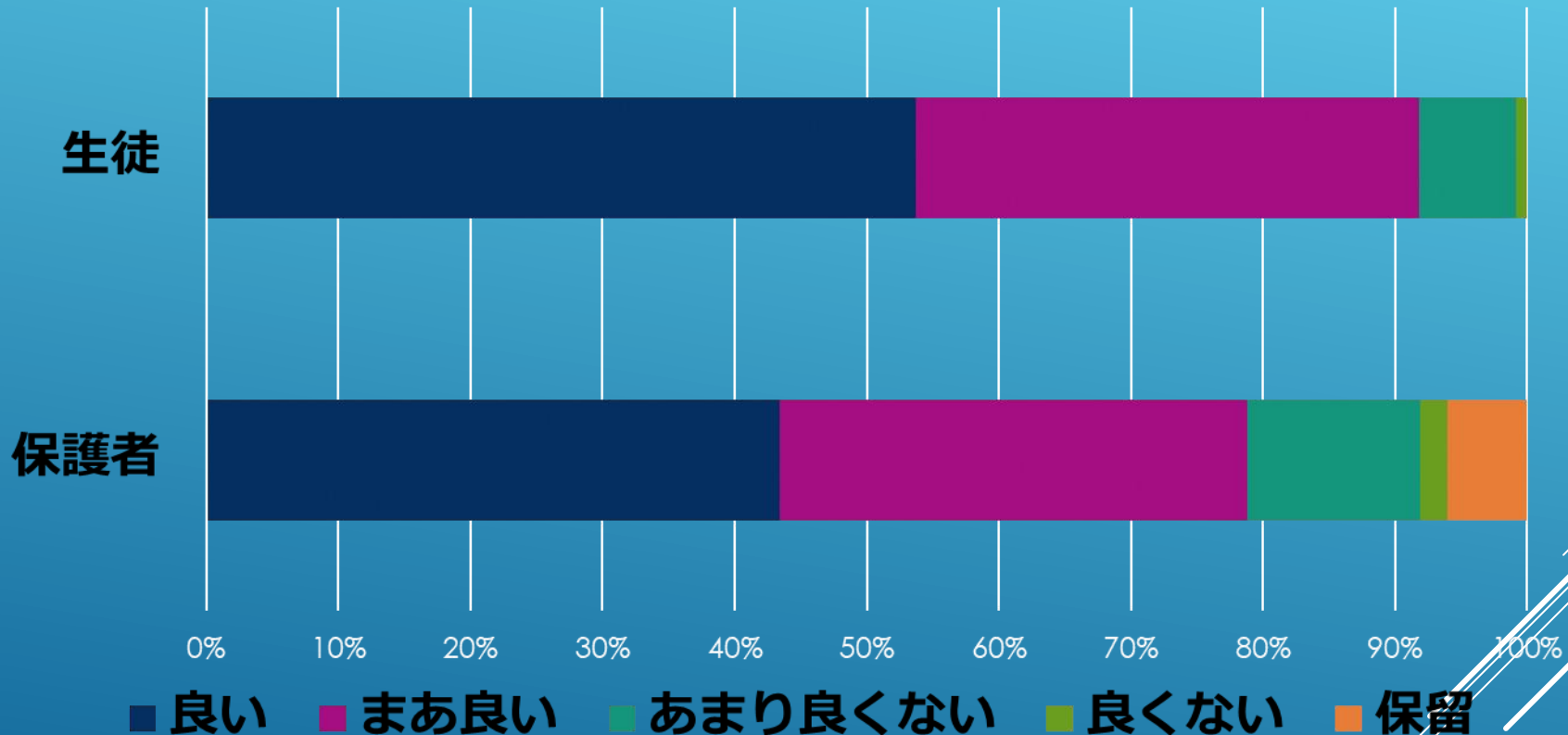
16時30分生徒の活動終了時刻の設定

生徒の帰宅後の時間の有効活動への誘発

- ・塾へ行くまでに余裕ができ、ゆっくり考えたりする時間が増えた。
- ・自主練とか必要だと思ふことを明確な時間にできるようになった。
- ・気持ち的に楽になった。
- ・親が共働きなので、家事をする時間が増えた。

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

R4学校評価より(G中)



16時30分生徒の活動終了時刻の設定

R4学校評価より(G中 保護者)

- ◇夕飯を早く食べることができて家族団欒の時間が作れる。
- ◇時間を有効に使いながら自分で考えて過ごせている。
- ◇学習時間が確保できる。
- ◇明るい時間に帰宅でき安心。
- ◆早く下校したところでその分家で学習するかと思ったらそうではない。
- ◆有意義に時間を使っていない。

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

R4学校評価より(G中 保護者)

反対意見に対して

- ・ P T Aの協力 家庭での教育を訴え
- ・ 個別指導

更なる時間の有効活用の方法の提示

練習メニュー、家庭学習方法、研究 等

※予想に反して反対意見が少なかった

るかと思ったらそうではない。

◆有意義に時間を使っていない。

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

R4学校評価より(G中 教職員)

- ・ 家庭で、家族と過ごす時間が増えた。
- ・ 教科の準備に十分時間をかけることができるようになった。
- ・ 自分の肥やしにできる趣味や読書の時間が増えた。
- ・ 生徒についての情報交流、支援の在り方などが他の職員と共有でき、指導に当たることができる。

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

1年後の問題点と改善点

- 標準時数より多い授業時間
→ 前期を週28時間（部活時間を増やす）、後期を週29時間など検討開始（行事や学習内容の検討も含め）

16時30分生徒の活動終了時刻の設定

1年後の問題点と改善点

- 下校後の有効な時間の使い方
 - 長時間のゲーム等の使用について指導、生徒会を中心に検討
 - 保護者と連携した取り組み
 - 個別に有効活用について助言

下呂市の働き方改革

1 部活動改革（地域移行）

2 16時30分活動終了

3 支える学校体制づくり

4 その他

- ・ 長期休業中の取り組み
- ・ 給食費・補助教材費の公会計化

16時30分活動終了を支える体制

- ・目的の明確化をはかる学校経営ビジョン
- ・6期のPDCAサイクルで行う職員会
- ・1週間のPDCAサイクル、生徒指導委員会
- ・指導のブレを最小限にする校務分掌
- ・全教職員で共通、生徒指導のスタンス

- ・ブレない指導の展開
- ・早期の戦略構想
- ・打ち上げ花火でない線の指導
- ・指導の蓄積

16時30分活動終了を支える体制

学年担任制

- ・生徒に安心感のある学校生活を送らせ、生きていく力を身に付けさせるために、
多くの目で生徒を把握し、
多くの頭で生徒に力をつける策を考え
多くの人の手で生徒に支援の矢を放つ
- ・今まで以上にダイナミックな戦略により生徒の成長を促す組織。教師も安心して生徒にあたれる働き方改革

学年担任制

R4学校評価より(G中 先生の声)

◇生徒にも職員にも時間が生まれた。とはいえ、教材研究、生徒指導等の超過勤務は少なからずある。その中でもこの学年担任制は、学級、学年にかかわる事務的处理を分担でき、負担軽減の効果もあり、生徒に寄り添う時間をうみだすことにつながっている。

学年通信の発行、三者懇談、通知表等作成等

R6の挑戦

学年担任制は、中学校2校で実施
ブロック担任制を、小学校1校で実施
小学校1校で計画

縦割りクラスを、

極小規模校小学校3校で
計画または実施

下呂市の働き方改革

1 部活動改革（地域移行）

2 16時30分活動終了

3 支える学校体制づくり

4 その他

- ・ 長期休業中の取り組み

- ・ 給食費・補助教材費の公会計化

長期休暇中の教職員の過ごし方

- ・学校閉庁日を8月10日から16日
- ・夏季の教育実践講座12講座
市教育会主催 1講座以上の受講
- ・中学校部活動練習は平日10日以内
土日は地域クラブ
- ・会議や校内研修は少なく、抱き合わせ

長期休暇中の教職員の過ごし方

校長会からの思い（指導）

生徒に、先生の体験話や専門家としての話
ができる先生であってほしい。

家族との時間を大切に

長期休暇だけしかできない体験を

給食費・補助教材費の公会計化

- ・令和5年度から実施
- ・一人当たり月平均2.5時間の
時間外勤務時間の削減に